

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 6 月 4 日

茎数は概ね平年並み 中干しは適期に行いましょう 「ふさおとめ」の幼穂形成期は6月12日頃～の見込み

[生育概況]

5月下旬は低温で日照時間も少なかったため、品種により葉令は並～やや遅く、葉色は並～やや淡くなっていますが、草丈・茎数は概ね平年並みに推移しています。

植付けが早く初期生育が順調だったほ場では、中干しを始める時期に入っています。気象庁の2週間気温予報では、今後の気温は高くなると予測されていますので、適期に中干しを実施しましょう。ほ場によっては幼穂形成期が見込みよりずれる可能性がありますので、こまめに幼穂を確認しましょう。

表 1 品種別の生育状況（6月2日現在）

品種	植付け時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや遅	やや長	やや少	並
ふさこがね	4月20日	やや遅	並	並	並
コシヒカリ	4月20日	並	並	並	並
	5月1日	並	並	並	やや淡
粒すけ	4月20日	並	並	並	やや淡

※平年比は過去10か年（2015～2024年）の平均値との比較。

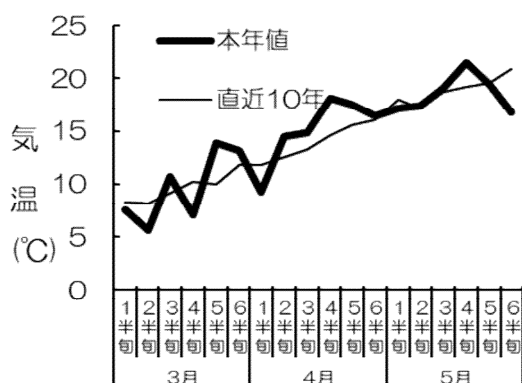


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

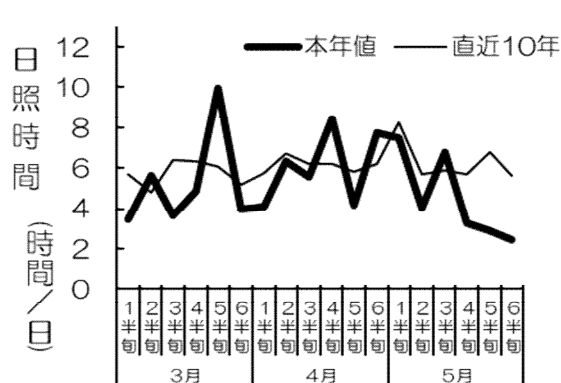


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 適期に中干しを実施します

4月に植え付けたほ場では、中干しを開始する時期となっています。ほ場ごとの生育を確認し、茎数が確保されたら速やかに中干しを実施してください。

中干しは無効分げつを抑制し過繁茂を防ぐとともに、地中深く根を張らせる効果があるため、近年頻発している登熟期の高温障害の予防としても有効です。土壤水分にムラが生じやすい場合は「溝切り」を行うことでムラが解消でき中干し効果が高まります。

表2 品種別の中干し開始目標茎数

品種	植付け時期	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/㎡ (27本/株)	480本/㎡ (27本/株)	440本/㎡ (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)
コシヒカリ	4月20日 5月1日	320本/㎡ (18本/株)	310本/㎡ (17本/株)	300本/㎡ (16本/株)
粒すけ	4月20日	472本/㎡ (26本/株)	440本/㎡ (24本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。疎植の場合はこの目標に達しないことがある。

■ 穂肥の時期は幼穂長で判断します

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月12日頃から、「ふさこがね」は6月13日頃から、「コシヒカリ」は6月21日頃から幼穂形成期(幼穂長1mm)となる見込みです。

幼穂が確認できたら速やかに入水するとともに、適期に穂肥を施用しましょう。「ふさおとめ」の穂肥は遅れないよう幼穂長が1mm～1cm、「ふさこがね」は幼穂長が1cmになったら施用しましょう。施肥量は、窒素と加里を10a当たり成分量で各3kg(ただし、房総南部の粘質土は「ふさおとめ」が1～2kg、「ふさこがね」が2～3kg)が目安です。

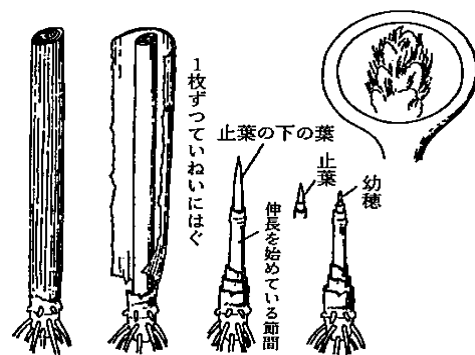


図3 幼穂の確認方法

表3 品種別の幼穂形成期の予測日

品種	植付け時期	幼穂形成期予測日(月日)			
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月18日～	6月15日～	6月12日～	6月12日～
ふさこがね	4月20日	6月19日～	6月16日～	6月13日～	6月13日～
コシヒカリ	4月20日	6月27日～	6月24日～	6月21日～	6月21日～
粒すけ	4月20日	6月25日～	6月23日～	6月20日～	6月20日～

※ 生育ステージ予測システム(令和4年度千葉県試験研究成果普及情報)を基に予測

◆水稲生育予測システム「でるた」で幼穂形成期の目安日を確認しましょう

千葉県では県内の水稲の出穂期と作業適期を予測する、無料の Web アプリ、水稲生育予測システム「でるた」を公開しています。ぜひご活用ください（右：二次元コードより）。



■病害虫・雑草防除

○いもち病発生に注意

今後、低温で降雨の日が続くと、いもち病の発生が多くなると予想されます。特に、昨年いもち病の発生があったほ場や、風通しの悪いほ場では注意が必要です。

補植用の置き苗は早めに処分し、感染源を減らしましょう。

○イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。防除対策等は右の二次元コードより県HPを参照ください。



写真1 イネばか苗病

○畦畔から侵入する「ほふく性雑草」を防除します

畦畔からのイネ科ほふく性雑草（キシウスズメノヒエ、アシカキ等）やイボクサが本田に侵入する時期です。中干しを始めると茎の節から発生した根が田面に張るため、除去が難しくなります。中干しと併せて取り除きましょう。

◆ナガエツルノゲイトウ（草刈り時の拡散防止）

特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」の発生地域が拡大しています。茎断片でも容易に芽を出し定着するため、草刈りにより個体数を増やす場合があります。

また、草刈り時に茎断片が水路に落下すると水系を通じて拡散する恐れがあります。

畦畔は「ラウンドアップマックスロード」「ロイヤント乳剤」「ザクサ液剤」等の除草剤を使用し防除します。

詳しくは千葉県農林水産技術会議発行資料を参照して下さい。（右：二次元コード）



写真2 白い花が咲く



写真3 畦畔から本田に侵入する様子

次回の「水稲の生育状況と当面の対策」は、6月18日に発行予定です。

J-クレジット制度等の「水稻栽培における中干し期間の延長」に取り組む際の留意点

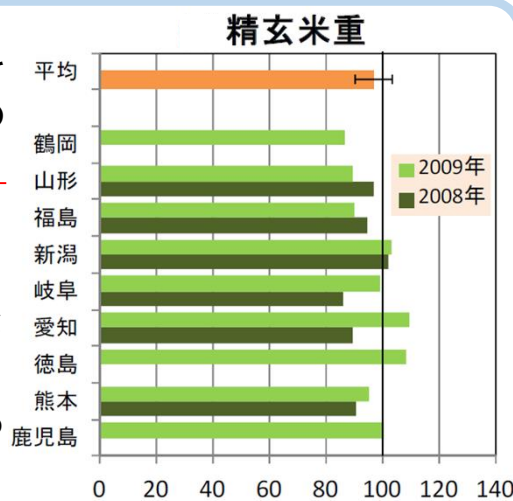
- J-クレジット制度※¹等の「水稻栽培における中干し期間の延長」※²の取組は、水田からのメタンガス発生量を減らしつつ、新たに収益を得ることが期待できるため、県内でも徐々に広がりを見せています。
- 一方、ほ場条件によっては、米の収量や品質に影響するおそれがあるため、取組に当たっては、以下の点に留意しましょう。

※¹ 温室効果ガスの排出削減量等を「クレジット」として国が認証し、取引を可能とする制度。事業者がまとめて申請する形が一般的。

※² 中干し期間を、その水田の直近2か年以上の実施日数より7日間以上延長する(前倒し延長も可)。所定の審査を経てクレジットの認証が受けられる。

①収量・品質への影響

- 全国8県で実施された試験結果※³によれば、中干し期間を慣行の日数から1週間程度延長することで、平均3%程度の減収が見られ(図1)、**中干しの過度な延長には収量減が伴う**との注意喚起がされています。
- 一方、多くの地点において慣行よりも登熟歩合が向上し、タンパク質含量の低下が認められるなど、品質が向上したことも示されています。
- 県では現在、収量性を維持しつつメタンガスの発生を低減する水管理技術について、検討を行っています。



※³ 「水田メタン発生抑制のための新たな水管理技術マニュアル」(H24.8 (独)農業環境技術研究所)

中干し延長による精玄米重変化(慣行水管理を100とする)
図1 全国8県の水田メタン削減試験における中干し延長による収量の変化

②玄米中のカドミウム(Cd)濃度への影響

- **過度の中干しは、土壌からのカドミウムの吸収を促進させ、玄米中のカドミウム濃度を上昇させるリスクがあります。**なお、コメ(玄米及び精米)中のカドミウム濃度が0.4 mg/kgを超えると、食品としての販売ができなくなります(食品衛生法)。
- 中干し期間は、県が推奨する標準的なカドミウム吸収抑制対策(**出穂3週間前から出穂2週間後までの間、水田を湛水状態に保つ**)や地域の状況などに基つき、適切に設定してください。

表 湛水管理によるCd吸収抑制効果

水管理方法 (出穂-21～ +21日)	玄米中Cd 濃度 (mg/kg)										
間断かん水	0.66	- 3 週 - 2 週 - 1 週 + 1 週 + 2 週									
湛水管理	0.18										

「コメ中のカドミウム低減のための実施指針」(H30.1 農林水産省消費・安全局)より引用・改変

図2 カドミウムの吸収を抑制する水管理

注) 暦は4/20植えコシヒカリの例

◇ 本資料に係る問合せは、環境農業推進課(TEL:043-223-2773)または各農業事務所までお願いします。
千葉県農林水産部(令和7年1月作成)